

南極点単独徒歩到達への第2弾  
カナダ北極圏750km単独徒步行  
報告書



阿部雅龍  
Masatatsu Abe

# 報告概要

お世話になっております。夢を追う男の阿部雅龍です。

2015年春はカナダ北極圏を単独で750km歩いて参りました。昨年の遠征よりも厳しい環境下で更に長い距離を歩いて参りました。これは2017年末に実行予定の日本人初の南極探検家白瀬中尉の足跡を伸ばしての南極点単独徒歩到達の為の冒険第2弾です。今回の遠征では当初は1000km踏破予定でしたがルート上の海水状況が悪く、750km踏破した時点で撤退となりました。ですが去年に比べて、明らかに極地冒険に関する技術が向上しているのを実感し、2017年の南極に向けてのトレーニングとしては大成功を収めました。

今年の遠征では、冒険の様子をSNS現地からリアルタイムで配信・共有しました。また母校国立秋田大学の学生達との現地からイヌイットや現地教師をむすんでのビデオ通話による出前授業、イヌイットの村々にある学校でも講演活動をして周りました。

これら全ては目指す『冒険を通して誰もが夢を自由に描け笑顔になれる未来』の実現のためです。

来年度春は南極への第3弾としてグリーンランドを1,200km単独で歩きます。今回よりも難易度を上げ距離を伸ばし、南極への布石に致します。次なる冒険で更なる冒険の配信・共有、メディアへの露出を図ります。今後とも何卒皆様の協力宜しくお願ひします。

## プロフィール

### 夢を追う男 阿部雅龍

1982年生 180cm 68kg

秋田県出身 国立秋田大学卒業

秋田大学在学中から冒険活動を始め、講演執筆・メディア・SNSなどで冒険の様子を発信・共有し、『夢を追う素晴らしさ』を共有するために活動中。冒険を通して誰もが夢を自由に描け笑顔になれる未来を目指す。2017年に同じ秋田県出身の白瀬中尉の足跡を辿り単独徒歩での南極点到達が現在の冒険目標。その為に近年は北極をソリを引いて歩く。冒険のトレーニングを兼ねて浅草で人力車を引く。

著書に学校推薦図書『次の夢への一歩』角川書店がある。



## 5カ年計画の進捗(2013年計画)

- 2013年——2014年の冒険の為のトレーニング・準備・資金集め
- 2014年春——カナダ北極圏単独徒歩500km
- 2015年春——カナダ北極圏単独徒歩750km
- 2016年春——グリーンランド単独徒歩1200km
- 2017年冬——南極大陸単独徒歩1500km

# 2015年遠征踏破ルート



北米大陸俯瞰地図  
黒丸：冒険範囲



徒歩行ルート750km  
レゾリュート-グリスフィヨルド片道500km  
グリスフィヨルド周辺徒歩 250km 計 750km

## 冒険日程

カナダ北極圏単独徒歩750km54日間  
レゾリュート-グリスフィヨルド周辺

- |             |                                 |
|-------------|---------------------------------|
| 2月26日       | 羽田空港から日本出国→カナダ・トロント→オタワ         |
| 2月28日       | オタワにて追加装備購入。イカルイトヘフライト          |
| 2月28日～3月13日 | イカルイトで現地トレーニング・食料調達・大学生へ出前授業    |
| 3月13日       | レゾリュートヘフライト                     |
| 3月13日～3月19日 | レゾリュートで現地トレーニング徒歩終了             |
| 3月20日～5月1日  | 43日間でグリスフィヨルドへ。雪が少なく予定より日数がかかった |
| 5月3日～5月12日  | グリスフィヨルド周辺のフィヨルドを歩く             |
| 5月17日～5月19日 | イカルイトヘフライト。大学生へ出前授業             |
| 5月19日       | イカルイト経由で日本ヘフライト。                |
| 5月21日       | 羽田空港に帰港 日本帰国                    |

# 2015年カナダ北極圏750km収支報告

<b>収支</b>		
1カナダドル=100円計算		
収入	単位(円)下三桁切捨	備考
クラウドファンディング READYFOR?による支援金	3,058,000	3,224,000円の内、実際に決済可能だった額
READYFOR?システム利用費・決済費	-561,449	手数料17%
READYFOR?協賛者へのリターン	-291,566	Tシャツ・手紙・郵送費など
計	<b>2,204,985</b>	
<b>支出</b>		
		<b>※装備品提供の金額は除く</b>
航空券購入費	787,680	航空券合計金額 往路：日本 - トロント - オタワ - イカルイト - レズリュート 復路：グリスフィヨルド - レズリュート - イカル イト - オタワ - トロント - 日本
荷物超過費	106,869	飛行機での荷物超過
装備品購入費	343,889	追加購入装備品
保険代	205,530	2か月3週間分 特別運動割増
宿泊費	297,550	オタワ・イカルイト・レズリュートでの宿泊費
通信費	94,000	イリジウム衛星携帯電話通話費
食費	144,528	徒歩行60日分食費含む
人件費	50,000	READYFOR?事務作業手伝い、日本での連絡サポ ート
交通費	64,624	日本国内で装備品回収移動費、学生との会議移動
雑費	185,701	備品購入など
計	<b>2,280,371</b>	<b>※装備品提供の金額は除く</b>
<b>収支合計</b>		
	<b>-75,386</b>	

# 2016年グリーンランド冒険予算・ルート



グリーンランド俯瞰図

プレ南極として徒歩距離1200km予定  
 グリーンランド最北の村シオラパルク(北緯77度47分 西経70度38分)を拠点に踏破予定

## 予定日程・支出概算

- 2月中旬 日本出国 デンマーク経由でグリーンランド最北の村シオラパルクへ
- 2月下旬 シオラパルクで滞在しながら現地トレーニング
- 3月上旬 シオラパルク出発 1200km 徒步行開始
- 5月下旬 シオラパルク帰還 1200km 徒步行終了
- 6月上旬 日本帰国

支出	単位(円)下三桁切捨	備考
航空券購入費	650,000	日本 - コペンハーゲン - ウマナビック - カーナーク - シオラパルク往復
荷物超過費	150,000	飛行機での荷物超過
装備品購入費	1,500,000	キャンプ用品・ソリ・スキー購入など
保険代	300,000	特別運動割増
宿泊費	300,000	グリーンランドでの宿泊費
通信費	200,000	イリジウム衛星携帯電話通話・通信費
食費	300,000	徒步行90日分食費含む
雑費・予備費	300,000	
合計	<b>3,700,000</b>	

# 北極圏冒険 750km の様子



出国。資金を浮かす為、  
外国の空港の床で夜明かし



イカルイトでトレーニング  
カナダ国営局の取材を受ける



秋田大学の学生達と北極から出前授業  
イヌイトや現地教師が出演



130kg のソリを引いて歩く



北極の現地学校で講演会  
計 3 校 4 回開催



-40℃で口元が凍り付く



テントに遊びに来る白クマ



幻日の中を歩く



最北の村グリスフィヨルドで 54 日間の徒歩を  
終える。多くの方が訪問を歓迎してくれた



支援者様達の名前入りの旗と

# 協賛企業・団体一覧（順不同敬称略）

## 協賛

- エナジーイノベーション株式会社
- 有限会社社プリンス

## 物資提供

- |                  |                           |
|------------------|---------------------------|
| ●株式会社 fine track | アウトドアウェアの提供・開発            |
| ●株式会社モチヅキ        | ストーブ・マットレスなどの提供           |
| ●ソニー株式会社         | カメラ ActionCam 等の提供        |
| ●株式会社ダックス        | テント・バックパック・ハーネス等の開発・提供    |
| ●株式会社カロツェリアジャパン  | BLACK FLYS のサングラス・ゴーグルの提供 |
| ●セイコーウオッチ株式会社    | 時計ランドマスターの提供              |
| ●GPS ストア         | GPS 提供・ソーラーパネル相談          |

全ての協賛企業様のロゴをソリに貼り付け冒険致しました。  
今後も今回の写真・映像などが継続してメディアで使われる事が予想されます。

## 冒険のロゴについて



岩手県盛岡市在住のエクストリーム・ペインター・TAKA がデザインロゴ。

コンセプトは『無限龍』

阿部雅龍の龍をモチーフする。尻尾が無限の可能性を表す無限大になっている。中央の輪は雷門の枠組みと人力車の車輪をイメージし、放射する力を表現している。

TAKA(松嶺貴幸)：1985年生まれ。16歳までフリースタイルスキーを志す。転倒事故により頸椎を骨折、脊髄を損傷し四肢麻痺（両手両足が動かない）となる。その後、マウスペインティングによるアート活動を始める。

一般社団法人ランプアップいわて代表

<http://takayuki-m.com/>

## 国立秋田大学学生との共同研究



昨年の遠征に引き続いての現役学生との共同研究。冒険と伝統と教育を結びつけるプロジェクト。

[http://www.mono.akita-u.ac.jp/act\\_sub02.html](http://www.mono.akita-u.ac.jp/act_sub02.html)

学生達が主催する「KAJIYAプロジェクト（日本の伝統技術を学び、新たな物をつくる活動）」と共同で、冒険で使うナイフを製作する。今回はチタンを使い軽量化かつ頑丈さを最重要課題とした。南極に向け学生たちと年々改良を重ねていく予定。

またこのプロジェクトの学生達には熱効率の良い鍋も製作して貰っている。

## 北極と大学をむすぶプロジェクト



国立秋田大学の学生達と作ったプロジェクト。

<https://www.facebook.com/northpole.akita>

主目的として、北極から現地の人を呼んでビデオ通話での出前授業。ウェブ上での冒険のリアルタイム配信。熱意のある学生同士が繋がる。この3つを目的とする。主旨に同意した14名の学生が自主的に組織を作った。

北極からは計2回。インターネットのビデオ通話機能を使い、カナダ北極のイヌイト・高校教師・元市長を呼び、英語で北極の政治や教育、現状について話し合った。

冒険の共有として、学生達と冒険中も衛星携帯電話で毎日交信を行いFacebookとTwitterでリアルタイムに現状を発信した。行動的で情熱的な学生達が集まり、プロジェクトの学生同士で新たな活動を立ち上げる学生達も多い。

学生達の活動に注目が集まり、メディア取材が入り、秋田大学にも全面的にバックアップして頂いた。

## 常設展示・写真展



秋田大学での展示一部



白瀬南極探検隊記念館での展示一部

### ■常設展示

秋田県秋田市にある母校国立秋田大学校内インフォメーションセンターに、写真と冒険装備の常設展示  
秋田県にかほ市にある白瀬南極探検隊記念館に写真の常設展示

### ■写真展

国民文化祭の一環として秋田駅前なかいちにて写真展（2014年9月20日～9月23日）

国立秋田大学インフォメーションセンターで写真展（2014年7月28日～9月10日）

### ■今後の写真展の予定

2015年11月12日～18日、浅草にてロゴデザインのTAKAと写真作品展示会を開く

## 2015年の海氷の状態について



衛星による赤外線写真(2015年5月16日)



飛行機から見える氷の割れ目(5月13日)

2015年春はルート上の海氷があまり凍らない年であった。

左写真は衛星による赤外線写真である。白い部分が氷、黒い部分が海水と考えて頂きたい。赤線で示したのが今回踏破したルートである。予定ではスタートから海氷の上を歩く予定であったが、レゾリュート周辺の海が今年は凍らず、止むを得ず起伏のある内陸を130kgのソリを引いて歩く事となり500km踏破しグリスフィヨルド到着時には予定から8日間の遅れが生じていた。村に到着時に海氷状態を現地警察で確認した所、海氷の割れが広がっており復路は不可能だと判断。代わりに村の周辺を歩き更なるトレーニングとした。村から飛行機で飛び立つと直ぐに右写真の景色が見えゾットとする戦慄を覚えた。海氷は年々凍らない傾向にある。

1000kmは踏破できなかったものの、極地への対応に確かな手ごたえを感じ、南極への布石としては大成功と言える遠征であった。